

令和元年6月20日現在

機関番号：34101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02187

研究課題名(和文) 明治維新期の宗教都市伊勢の変容と府・藩・県における神仏分離政策の展開

研究課題名(英文) The Transformation of the Religious City of Ise and the Development of the Policy Separating Shinto and Buddhism in Urban Prefectures, Domains, and Rural Prefectures During the Meiji Restoration

研究代表者

河野 訓 (KAWANO, Satoshi)

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：20329907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：伊勢(宇治と山田)を中心に広がる神宮に関する別宮・摂末社等125社の文献調査と現地調査を行い、これまでの明治維新の廃寺を中心とした寺院研究、及び近世以降、記録されている神祠・仏堂研究と結合させ、大きく変容した明治維新期の伊勢の宗教状況を明らかにした。また、明治維新時の各地における神仏分離にともない廃仏毀釈が激しく行われた府・藩・県及び山岳信仰の見られた霊山について文献調査、資料収集、現地調査を行い、個別の特殊な事情や行われた時期や規模による相違点などを明らかにし、報告書にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在は日本の神道の中心の一つとなっている伊勢(宇治・山田)について、近世の神仏習合の状況を確認した上で、近世の寺院や神祠・仏堂の分布に加え、神宮関連の125社についてもその所在・性格等と明らかにし、近世から明治維新にかけての伊勢の宗教状況を明らかにした。また、明治維新政府の神仏分離政策にともない日本各地で激しい廃仏毀釈が見られたが、その展開の様子、個別の特徴などを文献・資料調査と現地調査で明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This project was conducted through documentary investigation and field surveys on the Jingu shrine complex in Ise, which contains 125 shrines of varying sizes and importance located primarily in and around modern-day Ise City (i.e. Uji and Yamada). Building upon work performed in a previous study on the abandoned temples and the small shrines and temples, this project clarified how the religions conditions in Ise city were significantly transformed at the beginning of the Meiji Restoration. In addition, through documentary investigation, document collection, and field surveys of mountains that were considered sacred in urban prefectures (fu), domains (han), and rural prefectures (ken) where a policy for oppressing Buddhism, called haibutsu-kishaku, was carried out intensely, this project clarified the unique circumstances for each location and the differences observed due to the timing and scale of activities, and the results were contained in a report.

研究分野：宗教学

キーワード：神仏分離 廃仏毀釈 宗教都市 伊勢 神仏習合

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は申請者が研究代表者としてかつて行った基盤研究(C)(一般)「宗教都市伊勢における神仏分離と寺院・神祠の景観変化に関する歴史的研究」(平成22年度~24年度。以下、河野科研と略す)及び基盤研究(C)(一般)「明治維新期の神仏分離政策の波及と宗教都市伊勢の神仏分離」(平成25年度~27年度。以下、河野科研と略す)の研究成果をふまえて行われるものである。また、この二つの基盤研究以前に研究分担者として研究に加わった基盤研究(C)(一般)「宗教都市における神仏分離の実態的研究 伊勢神宮の門前町「宇治・山田」を中心に」(平成19年度~21年度。代表:櫻井治男皇學館大学教授)に研究方針及び研究方法は負うところが大きい。

本研究は主に申請者の住む宗教都市・伊勢の神仏分離研究と、それをなお一層明らかにするための他地域における神仏分離研究の二つの大きな柱からなっている。

宗教都市・伊勢の神仏分離研究に関しては、河野科研で主に伊勢に存在した個々の寺院のデータがまとめられ、近世の絵図等を活用して江戸時代から明治維新期にかけての伊勢の宗教景観を明らかにされた。科研では伊勢の宗教状況をさらに明らかにするため神祠や仏堂に関する史・資料が整理され、神仏の混淆していた江戸時代の様子と、神仏分離を経て多くの仏教寺院や仏堂が廃され、神宮を中心に神道化の進んだ明治維新期の伊勢が明らかにされた。本研究では両研究によりまとめられた基礎データを活用しつつ、明治初年の短期間の中で、具体的にいつ、何がおこったのかをその詳細を明らかにしようとした。先の河野科研とでは個々の寺院・仏堂・神祠等に目を向けていたのを、本研究では神宮とその別宮、撰末社、所管社という全く神道的である伊勢神宮関連の神社と山田に所在する産土社を加えて伊勢の宗教状況の全容を明らかにし、あわせて仏教宗派間の寺院相互の関わりや統合のありさまなど、流動的な側面も考慮に入れて、その実態を明らかにしようとした。

一方、伊勢以外の日本各地でも進められた神仏分離政策はその府・藩・県で種々の相を見せている。府・藩・県からの伺いに中央の明治政府が指示を出すことから、政府の意向が地方に伝えられることは言うまでもないが、神仏分離政策の浸透の深浅は区々である。伊勢は明治2年に神宮の式年遷宮があって、神仏分離と住職の還俗(復正)や廃寺はその前年の明治元年暮から加速度的に進んだ。河野科研による他の地域の社寺調査の結果では、様々な様相を呈していることが明らかになった。山岳信仰に関しては、富士山や出羽三山、戸隠山など、現在、神道の神社となっているところが多いが、修験道でありながら、仏教色の濃厚な吉野や国東半島などにも注目しつつ、その変容ぶりを比較・検討した。さらに、とりわけ廃仏の凄まじかった佐渡島、隠岐島、旧苗木藩、旧薩摩藩などでは、個別の理由がありながらも、中央政府との政策的な連携が比較的強かったと考えられ、神仏分離政策の波及・浸透を考えるうえでは格好の材料であるから、文献史料を収集するとともに、今に残る廃仏の跡も実地調査した。

### 2. 研究の目的

明治維新期に神仏分離が徹底され、神宮を中心として神道に特化された宗教都市伊勢(元宇治・山田)について、三重県庁等の所蔵する明治維新関係の史料にある復正(還俗)・廃寺や寺院合併の願上書・届け、廃寺の寺院建物・仏像・仏具などの廃棄や他寺院への移動記録の全体を整理し、現在、伊勢市内に所在する寺院の保有する文書等と照合の上、明治維新期の伊勢の宗教を研究するための基礎データを提供する。また、伊勢以外で、特に神仏分離が顕著で、後世、廃仏毀釈と受け止められた諸地方については、維新期の明治政府と当該藩・府県のやりとりにも注視しながら、神仏分離政策の展開の実態を明らかにする。

### 3. 研究の方法

#### (1)平成28年度

三重県庁等の所蔵する明治維新関係の史料にある復正(還俗)・廃寺や寺院合併の願上書・届け類の文書及び廃寺の寺院建物・仏像・仏具などの廃棄や他寺院への移動記録を分析・整理した。また、明治20年前後に作成された三重県立総合博物館所蔵「度会郡宇治山田市の各町の図」について、記されている寺院を分析し、これまでに三重県庁所蔵「寺院建物絵図並田畑石高帳」、神宮文庫所蔵「寺院名録」から得た個々の寺院資料と突合し、データ化を行った。

明治維新期の神仏分離の波及を知るため、諸文献に記される明治維新時の諸藩における神仏分離の断行の実情確認のため各地の諸社寺や隠岐の島や御嶽山麓の神仏習合と神仏分離について調査し、特に伊勢、隠岐、御嶽、津和野藩等に関する近代の資料を分析した。伊勢市内では古市街道沿いの社寺及び神仏分離の際に廃寺となった寺院跡、外宮の鳥居前町である山田の社寺及び寺院跡、神祠、河崎地区の神社と祠堂、今一色の社寺、祠堂、玉城町田丸の寺院などの現地調査を行った。

#### (2)平成29年度

伊勢市(宇治・山田)内の神社の基礎データとして『神宮要綱』所載の神宮関係の別宮・撰社・末社についてデータ化し、神宮125社を詳述する関係図書をもとに、確認のための現地調査を随時行った。それを補うために、三重県庁所蔵「明治元年 寺院建物絵図並田畑石高帳」及び東京国立博物館所蔵の「伊勢路見取絵図」(平成23年度にデジタル撮影済)に見える神祠と仏堂を整理し、データ化した。諸文献に記される明治維新時の諸藩における神仏分離の断行とそれともなう廃仏毀釈の実情確認のため各地の諸社寺や図書館、史料館等において神仏習合と

神仏分離を中心に調査した。

(3)平成 30 年度

伊勢市(宇治・山田)内の神社の基礎データとして『神宮要綱』所載の神宮関係の別宮・撰社・末社についてデータ化し、神宮 125 社を詳述する関係図書や、三重県庁所蔵「明治元年 寺院建物絵図並田畑石高帳」及び明治 20 年代の 2 万分の 1 地形図(『正式二万分一地形図集成』中部日本 2、柏書房、平成 15 年)を参考に、確認のための現地調査を行った。

諸文献に記される明治維新時の諸藩における神仏分離の断行とそれともなう激しい廃仏毀釈の実情確認のため各地の諸社寺や寺院跡、図書館、史料館、教育委員会等において神仏習合と神仏分離を中心に調査を行った。

そのほか研究期間中の 3 ヶ年を通じて神道史学会、日本印度学仏教学会大会、日本宗教学会に参加し、近代初頭における神道と仏教、修験道に関する発表の聴講、情報交換及び情報収集を行った。

#### 4. 研究成果

(1)明治維新期の宗教都市伊勢の変容について

伊勢市(宇治・山田)内の神社の基礎データとして『神宮要綱』所載の神宮関係の別宮・撰社・末社についてデータ化し、神宮 125 社を詳述する関係図書をもとに、確認のための現地調査を行った。それを従来の研究成果である 東京国立博物館所蔵の「伊勢路見取絵図」(平成 23 年度にデジタル撮影済)に見える寺院(その多くは明治維新に廃寺)、神祠と仏堂のデータ、また三重県庁所蔵「明治元年 寺院建物絵図並田畑石高帳」や神宮文庫所蔵「寺院名録」から得た個々の寺院資料、三重県庁等の所蔵する明治維新関係の史料にある復正(還俗)・廃寺や寺院合併の願上書・届け類の文書及び廃寺の寺院建物・仏像・仏具などの廃棄や他寺院への移動記録と突合して総合し、明治維新期の宗教都市伊勢の変容を明らかにしようと試みた。併せて、神仏分離の結果ともいえる明治 20 年頃の状況については 明治 20 年代の 2 万分の 1 地形図(『正式二万分一地形図集成』中部日本 2、柏書房、平成 15 年)及び 明治 20 年前後に作成された三重県立総合博物館所蔵「度会郡宇治山田市の各町の図」により補った。

(2)府・藩・県における神仏分離政策の展開を確認するための現地調査について

諸文献に記される明治維新時の諸藩における神仏分離の断行についてその実情を確認するため、神仏習合と神仏分離が顕著に見られた以下の各地の諸社寺や山岳及びその麓の集落、登拝路における神仏習合と神仏分離後の実態について調査した。現地調査の際に収集した史資料などをもとに、各地の社寺及び山岳の神仏習合と神仏分離に関する報告を作成した。現地調査した神社は旧島津藩内の鹿児島神宮等の諸社、筥崎宮、香椎宮、赤間神宮、太鼓谷稲成神社、大田市の城上神社・佐毘売山神社・豊栄神社、隠岐の水若酢神社・玉若酢神社、吉備津彦神社、吉備津神社、土佐神社、伊弉諾神宮、生田神社、知立神社、猿投神社、王滝・御嶽神社、佐渡島の度津神社や大膳神社・小比叡神社、三嶋大社、伊豆山神社、鶴岡八幡宮、氷川神社、千葉神社など、また、寺院は旧島津藩内の寺院跡、勝源寺(大田市)、隠岐国分寺、清水寺(安来市)、最上稲荷、高知の善楽寺・竹林寺、施福寺、善峰寺、醍醐寺、大蓮寺、神宮山蓮華寺、佐渡島の根本寺や妙宣寺・蓮華峰寺・世尊寺、宝珠寺(藤沢市)、称名寺、圓通寺、題経寺、中山法華経寺のほか、岐阜県東白川村(旧苗木藩内の一分)の常楽寺・妙観寺・蟠龍寺等の寺院跡などである。他に英彦山、石動山の伊須流岐神社・天平寺、伯耆大山の大神山神社奥宮及び大神山神社本社、大山寺、京都・愛宕山の愛宕神社など激しい廃仏毀釈が見られた山岳寺院など調査した。史料館等については鹿児島県立図書館、隼人歴史民俗資料館、九州国立博物館、奈良図書情報館、奈良国立博物館、醍醐寺霊宝館、細見美術館、石動山資料館、金沢文庫、國學院大學博物館等、東京国立博物館、サントリー美術館等の博物館等において各地の神仏習合と神仏分離について史資料等を閲覧し、特別展を観覧した。

(3)報告書の作成について

これらの調査や文献史料にもとづき、府・藩・県における神仏分離政策の展開について以下のから の分類に従って神仏分離の具体例を整理し、報告書に収載した。「神仏分離研究 概説」として、神仏分離政策の全国への波及をまとめた。「神社における神仏習合と神仏分離」として江島神社・多賀大社・霧島神宮・伊弉諾神宮(淡路島)・生田神社・枚岡神社・愛宕神社の各社、「寺院における神仏習合と神仏分離」として、黄檗宗寺院・書寫山圓教寺・粉河寺と産土神社・施福寺・善峯寺、「修験道における神仏習合と神仏分離」として、国東半島・木曾御嶽・英彦山、「特異な神仏分離」として、岡山藩・隠岐・十津川村・鹿児島藩・佐渡島・苗木藩について史資料を整理し、現状を報告書に収めた。また報告書には関係論集として「高野山における神仏分離の諸相」(田井健治氏)と「青井阿蘇神社所蔵吉田神道三壇行事の神具について」(新田恵三氏)を掲載した。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 4 件)

河野訓、「東アジアの環境思想と神道の環境思想」、『第 9 回 宗教と環境シンポジウム「日本人と宗教と杜の思想」報告書』、査読無、第 9 号、2019 年、pp.28-35

河野訓、「明治維新の神仏分離と今現在」、査読無、『京都・宗教論叢』、12 号、2018 年、pp.38-41

河野訓、「東アジアの宗教建築」、査読無、『伊勢国際宗教フォーラム第 10 回年次大会第 11

回年次大会記録集』、2018年、pp.3-22

河野訓、「宗教にみる中国文化の輸入」、『東亜視角下の宗教と伝統文化回顧と展望』国際学術研討会 会議手冊』、査読無、2017年、pp.28-35

[学会発表](計5件)

河野訓、「東アジアの環境思想と神道の環境思想」第9回宗教と環境シンポジウム「日本人と宗教と社の思想」、2018年

河野訓、「宗教にみる中国文化の輸入」東亜視角下の宗教と伝統文化回顧と展望、2017年

河野訓、「仏教者のもたらした中国の神々」東京大学文学部思想文化学科インド哲学仏教学研究室第207回研究例会、2017年

河野訓、「1868年(慶応4年=明治元年)の神仏分離令」持久会、2016年

河野訓、「東アジアの宗教建築」伊勢国際宗教フォーラム第10回年次大会、2016年

[図書](計2件)

河野訓、『明治維新期の宗教都市伊勢の変容と府・藩・県における神仏分離政策の展開』、2019、351ページ

河野訓、木村清孝、采畢晃、菅野博史、船山徹、沖本克己、横井克信、『仏教的東伝与中国化』、法鼓文化、2016.08 「三教衝突と融合」(ISBN: 978-957-598-718-3)

[その他]

河野訓、「多賀大社の神仏習合と神仏分離」、『社報多賀』、査読無、60号、2018年、pp.6-7

河野訓、「多賀大社の神仏習合と神仏分離」、『社報多賀』、査読無、59号、2018年、pp.4-5

河野訓、「多賀大社の神仏習合と神仏分離」、『社報多賀』、査読無、58号、2017年、pp.6-7

河野訓、「多賀大社の神仏習合と神仏分離」、『社報多賀』、査読無、57号、2017年、pp.6-7

河野訓、「明治維新の神仏分離と今現在」京都・宗教系大学院連合2017年度チェーンレクチャー、2017年

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：田井 健治

ローマ字氏名：Tai Kenji

所属研究機関名：皇學館大学

部局名：文学部

職名：助手

研究者番号：10781312

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：新田 恵三

ローマ字氏名：Nitta Keizo

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。